

ふれあい情報

2017年 7月3日(月) 第257号

■発行 日本退職者連合
 ■発行人 菅井 義夫
 ■連絡先 〒101-0062

東京都千代田区神田駿河台 3-2-11

<TEL> 03-5295-0507 <FAX> 03-5295-0541 <e-mail> ntr@sv.rengo-net.or.jp

第10回連合・ILEC幸せさがし文化展

退職者連合関係は14人が入賞

7月3日、「第10回連合・ILEC幸せさがし文化展」の入賞者が発表になりました。文化展への応募総数は、前回より317点増えて4,013点となり、退職者連合関係では、総数412点の応募がありました。審査の結果、絵画、写真、書道の部門で3人の会員の方がそれぞれシニア特別賞を受賞するなど、俳句と川柳を加えた5部門で14人が入賞しました。入賞者は次頁に掲載しています。

退職者連合の阿部保吉会長は次のように述べています。
 「会員の皆さんが、日ごろから培っている生きがいづくりや趣味の活動の励みにしていただこうと、いろいろな機会を通じて文化展への積極的な参加を呼びかけました。その結果、多くの会員のみなさんが応募してくれました。」

また教育文化協会の村杉直美常任理事も「前回に比べて300点近い応募増をいただきました。内容を見ると80歳以上の応募人数は222人、作品数が、420点でした。現役の連合組合員はもろんのことですが、退職者連合の皆さんが日頃から取り組んでいる趣味の成果を発表する場として、これからもこの幸せさがし文化展を活用していただければ」と期待を寄せました。

趣味の発表の場にごっごぞ

応募点数は前回の

3倍増に

幸せさがし文化展は、連合と教育文化協会（ILEC）が主催して連合の定期大会開催年に合わせて2年ごとに開かれており、退職者連合も後援しています。

絵画、写真、書道、俳句、川柳の5部門で募集・審査が行なわれ、入賞作品は、定期大会会場に展示されるとともに入賞者は定期大会の中で表彰されます。

文化展への参加は、趣味を通じた会員の生きがいづく

りにつながる文化活動の一つです。こうしたことから退職者連合では、6年前から連合・ILECと連携して会員に広く参加を呼びかけてきました。

その結果、応募数は8年前の第7回が18点、第8回が51点、本格的に参加しはじめた第9回が142点、今回の第10回が412点となり、回を追うごとに増えています。

文化展は会員の

生きがいづくり

応募が増えた理由について



▲連合本部3階AB会議室で行なわれた初応募を対象とした特別審査委員賞の審査。(写真上、絵画の部・下は書道の部。6月21日)

入賞おめでとうございます。

第10回連合・ILEC 幸せさがし文化展

たくさんの応募の中から今回入賞された方々は、右の通りです。

退職者連合では、ホームページ中の「お達者だより」のコナーで8月以降、随時、入賞作品を紹介していきます。ぜひご覧ください。

＜絵画の部＞	シニア特別賞 秀作	市川貞夫（日産工場クラブ） 平井辰夫（U Aゼン友の会クラブ労組OB）
＜写真の部＞	ジュニア特別賞 入選	山中蓮温（U Aゼン友の会クラブ労組OB 家族） 百崎礼治（自治退・福岡県職組OB） 西山 栄（J P 労退）
＜書道の部＞	シニア特別賞 入選	飯野正子（N T T 労退東京都支部協） 森下克己（全印刷局退職者の会） 今泉敏雄（N T T 労退青森県支部協）
＜俳句の部＞	秀作 入選	山本隆啓（海員組合愛媛支部OB） 池田昭正（N T T 労退佐賀県支部協） 高木 勇（基幹労連シニア神戸製鋼労OB）
	特別審査員賞	藤原泰江（N T T 労退広島県支部協）
＜川柳の部＞	シニア特別賞 特別審査員賞	今泉いま（N T T 労退青森県支部協家族） 浅井常義（N T T 労退静岡県支部協）

(敬称略)

「カジノ解禁推進法に関する第4回意見交換会」開く

日弁連や退職者連合、中央労福協などが連携

廃止に向け、全国で世論づくりへ

カジノ解禁推進法の廃止に向けて取り組んでいる日本弁護士連合会（日弁連）は、6月21日（水）、東京・霞ヶ関の弁護士会館でカジノ解禁推進法に関する第4回意見交換会を開きました。主催者あいさつで加藤裕副会長は「今日の会議を具体的に運動を進めていく推進力にしていきたい」と述べ、廃止に向けて街頭宣伝行動や団体署名活動の取り組みが提起されました。意見交換会には弁護士、司法書士、消費者団体など20人が参加。退職者連合から菅井義夫事務局長と林道寛副事務局長が出席しました。

昨年12月のカジノ解禁推進法の成立を受けて政府は、「特定複合観光施設区域整備推進本部（IR推進本部）」を設置。秋の臨時国会での実施法の成立を目論み本年4月6日に第1回IR推進会議を開き、6月までに5回開催するなど着々と法制度、仕組みの検討を行っています。これに対し日弁連は、国民世論を盛り上げて廃止を実現しようと奮闘しています。会議では座長の新

里宏二弁護士が、5月12日に新宿駅で行った街頭宣伝行動にふれ「行動は大いに盛り上がった。全国でカジノ反対の世論をつくるためには、まだまだ闘うことができれば、まだまだ闘うことができる」と強調しました。当面の具体的取り組みとして①カジノ解禁推進法の廃止を求めるとともに実施法の制定に反対する要請書への賛同署名(団体署名)②大衆行動(街頭集会、デモ)が提起されま



▲運動づくりを話し合った意見交換会。(6月21日、弁護士会館)

した。都内では主要駅街頭宣伝行動として7月24日（新宿駅南口）と8月1日（池袋駅東口）の実施が決まり、日弁連や退職者連合、中央労福協、市民団体などが連携して取り組むことになりました。なお会議の中で菅井事務局長は、退職者連合の取り組みを報告するとともに提起された行動に積極的に参加していくことを表明しました。

ホームページは退職者連合で検索を

退職者連合

検索